## 第6学年 | 組 国語科学習指導案

指導者 春日市立春日北小学校 金丸 拓未

- Ⅰ 単元名 筆者の工夫をとらえて読み、それをいかして書こう 「『鳥獣戯画』を読む~」
- **2. 本時** 令和6年11月6日(水) 第2校時 6年1組教室にて
- 3. 本時の主眼
- 事実と考えを区別して「鳥獣戯画 17 紙」の解説文を書くことができる。
- 自分と筆者の解説文とを比べ、書き方の工夫に気付き、学習の見通しをもつことができる。

## 4. 本時の展開

段階	学習活動と内容	指導上の留意点
	1 本時学習のめあてをつかむ。	○ めあてをつかませるために, 鳥獣戯画 17 紙
見通す	<u> </u>	を提示し、絵から分かる事実を整理する。
す	(めあて) 絵の解説文を書いて	「, 筆者と比べよう。
	2 自分と筆者の絵の解説文を比べる。	
	(1) 自分なりに絵の解説文を書く。	<ul><li>○ 解説文を書きやすくするために、「誰が」「ど こで」「何をしている」「どんな気持ちで」な ばの知点な担意する。</li></ul>
さぐる	(2) 友達と解説文を伝え合う。 <b>評価のポイント</b>   点 絵から分かる事実が書かれている。   点 自分の考えがある。   点 見なくても想像できる。   点 分かりやすい。   点 納得できる。「なるほど」「確かに」	どの観点を提示する。 <ul><li>自分や友達の解説文を評価できるようにするために、5つの評価ポイントを提示した後、友達と伝え合わせる。</li></ul>
	(3) 筆者の解説文と比べる。  ・「はっけよい。」など実況中継風の書き出しになっている。 ・体言止めがあり、読みやすい。 ・「めくってごらん。」などの問いかけがあり、その先を読みたくなる。	<ul> <li>○ 筆者の解説文に着目させるために、1~3 段落を音読させる。</li> <li>○ 「書き出し」「文末表現」「問いかけ」の3 つの観点で筆者の工夫をまとめる。</li> <li>○ 「筆者の工夫をいかして、解説文を書く。」 という単元のゴールを提示し、今後の学習の 見通しをもたせる。</li> </ul>
ふり返る	3 本時学習をふり返り、筆者の工夫をまとめ、次時の見通しをもつ。	<ul><li>○ 今日の「学習で分かったこと(めあてに対する答え)」、「友達との対話から学んだこと」の2つの視点で振り返りを書く。</li></ul>
(ふりかえり) 筆者は、実況中継風の書き出しや問いかけなど、読者をひきつ書き方の工夫をしている。		